

三重県消防学校校旗

校旗作製に関する記録は定かではないが、昭和 43 年に津市栄町に消防学校が開校され専任職員を配置したことから、その当時校旗が作製されたものと思われる。

消防学校全面建替え(H5～9年)に伴い、平成9年に校旗も新調された。

幾多の消防人の育成を見守り送り出してきた旧校旗はその役割を終え、現在、額に収納され若葉寮1階に展示されている。

校旗の図案には消防職団員・消防関係職員を象徴する「消防き章」が用いられている。この「消防き章」は、外側に消防職員の「消防章」、内側(中心部)に消防団員の「消防団き章」を合わせたものである。

「消防き章」の図案等は三重県の規則(S43.2)に規定されており、「消防章」と「消防団き章」の大きさの比率は半径で10対5とされている。

消防職員を象徴する「消防章」は、雪の結晶図案を基礎とし、水管、管そう、筒先から放水する水柱を表している。雪の結晶は、水・団結・純潔等を意味し、消防の特性を象徴している。

消防団員を象徴する「消防団き章」は、桜の花の図案を基礎とし、その中心に Y 章(Yマーク)を配している。桜の花は日本の象徴であり、郷土愛の精神と潔さを意味し、消防団員の心意気を表したものである。

中心部の Y 章については、明治時代に消防マークとして使用されており、その由来は破壊消防の器具であった刺又(ヤヌタ)を図案化したものという説が有力である。

また、地図上で消防署を示す記号は明治42年から使われているが、Y章を起源としているとも言われている。



H9年～新校旗



消防き章



H8年まで使用の旧校旗